



Future Report 2017

2017.01.01 - 2017.12.31

フューチャー株式会社 TSE 1ST SECTION:4722

FUTURE^e

ごあいさつ

自らも新たな価値を創造し続け、 お客様の未来価値を最大化する企業グループへ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

AIやIoTなどのテクノロジーの進化が個人のライフスタイルや経済、さらには社会の変化をグローバル規模で加速させる中、フューチャーグループは他社に比して先進的かつ高い技術力を強みに、企業の経営はもとより課題解決や社会全体の変革に貢献する独自のコンサルティングスタイルを築き上げてきました。2016年4月には持株会社体制に移行し、これまでのノウハウを活かして自らも革新的なビジネスやオリジナルサービスの創出を試みており、その成果は着実に始めています。

フューチャーグループは、独自の戦略により得られた技術やノウハウをグループ内で共有し、新たな付加価値を加えてスピーディーにお客様に提供するというポジティブな循環を作り出すことで、お客様はもちろんのこと、自らの未来価値を最大化するユニークな企業グループとして、これからもたゆまぬ進化を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2018年3月



フューチャー株式会社
代表取締役会長 兼 社長 グループCEO
フューチャーアーキテクト株式会社
代表取締役会長

金丸 恭文



フューチャー株式会社
取締役副社長
フューチャーアーキテクト株式会社
代表取締役社長

東 裕二

フューチャーグループの現況及び今後の戦略について

2017年12月期の事業概況

2017年12月期のハイライト

01 連結売上高は
前期比7.8%増の
362.6億円

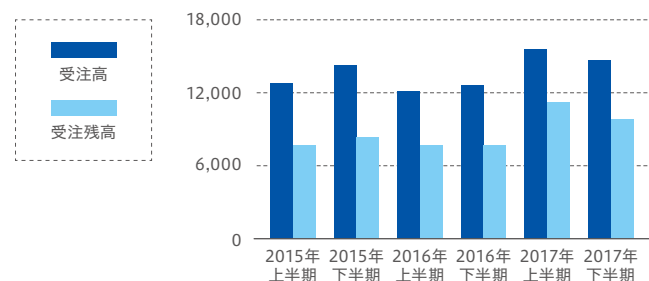
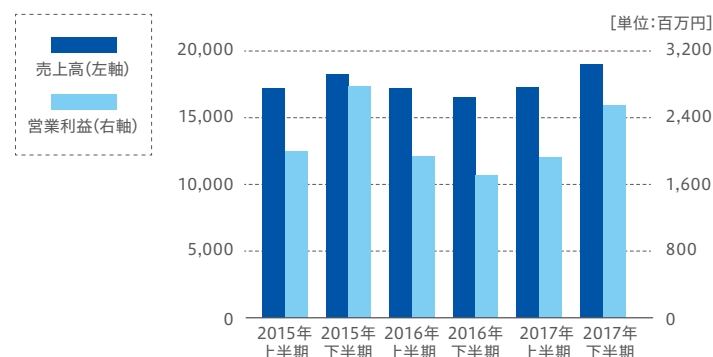
02 連結営業利益は
前期比22.4%増の
44.5億円

フューチャーグループの2017年12月期の連結業績は、売上高36,265百万円(前期比7.8%増)、営業利益4,458百万円(同22.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益3,733百万円(同69.1%増)となりました。

ITコンサルティング&サービス事業では、フューチャーアーキテクトが、アパレル、スーパー、メディア及び自動車関連企業より、画像解析などAIやIoTの最新技術を活用した新規プロジェクトを数多く受注しました。一方で既存プロジェクトの終了に伴い売上が前期より減少しましたが、利益率が改善したことにより、増益となりました。また、ワイ・ディ・シー、FutureOneは、オリジナルのソフトウェアの販売が好調で、売上高・営業利益ともに増加しました。

ビジネスイノベーション事業では、東京カレンダーがWEBと雑誌の双方で広告売上を拡大し、通期での黒字化を果たしました。また、eSPORTSは価格競争の激化等により減益となりましたが、コードキャンプは体制を見直したことにより第4四半期に初めての四半期営業黒字を達成しました。

【連結】半期別業績推移



※2017年第1四半期連結会計期間より、「ITコンサルティング事業」と「パッケージ&サービス事業」を集約し、「ITコンサルティング&サービス事業」に名称を変更しています。また、「ニューメディア&ウェブサービス事業」は「ビジネスイノベーション事業」に名称を変更しました。

今後の成長に向けて

ITコンサルティング&サービス事業においては、フューチャーグループ独自の付加価値の高いサービスを提供し、お客様のビジネスやITの改革に貢献することを目指しております。

また、AIやIoT等の最先端技術を使って画像解析や需要予測を行うプロジェクトを既に開始しておりますが、今後もこれら最新技術の研究開発に注力するとともに、研究成果のプロジェクトへの応用を進めます。ワイ・ディ・シーにおいても、AI、IoT等の技術を適用した製造業向けITコンサルティングの展開を進めます。

ビジネスイノベーション事業において、東京カレンダーは、累積していくユーザーの行動データを基に、フューチャーグループのテクノロジーを活用して、マーケティングプラットフォームの構築を目指します。コードキャンプは、法人向けのオンライン・オフラインのプログラミング教育等のサービスの一層の拡充に注力し、通期の営業黒字化を目指します。

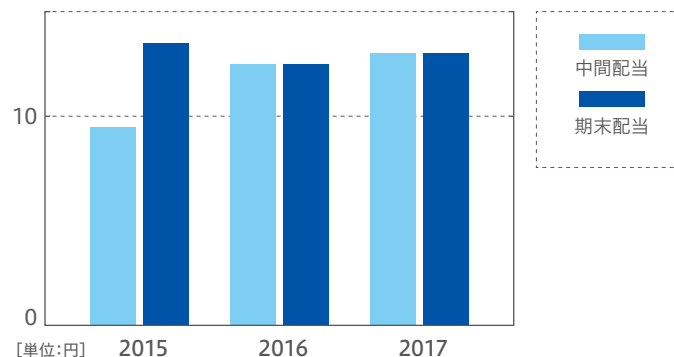
株主還元策

フューチャーグループは、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置づけ、持続的な成長を図るための内部留保資金を確保しつつ、期間損益、キャッシュ・フロー、自己株式の買付等を総合的に勘案して、連結の配当性向35%以上を目安に株主還元を実施しています。

この方針に基づき、2017年12月期の年間配当金につきましては、前年度の25円から増配となる、1株当たり26円とさせていただきます。2018年12月期につきましては、さらに増配となる、1株当たり28円(うち中間配当金14円)を予定しております。

▼ [連結]2017年度実績

	2017年度実績	2018年度計画
売上高	36,265 百万円	37,900 百万円
営業利益 営業利益率	4,458 百万円 12.3%	5,170 百万円 13.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益 当期純利益率	3,733 百万円 10.3%	3,530 百万円 9.3%



長期的戦略パートナーとしてお客様との関係をさらに強化

フューチャーグループは、2017年8月にエービーシー・マート様の海外仕入・卸売業務を支える基幹システムをクラウド上に全面移行し、IT基盤コストの約30%圧縮とシステム品質の強化を同時に実現しました。10月には、ワールド様と資本業務提携契約を締結し、ファッション業界の様々な課題にワンストップで対応する新会社を設立しています。

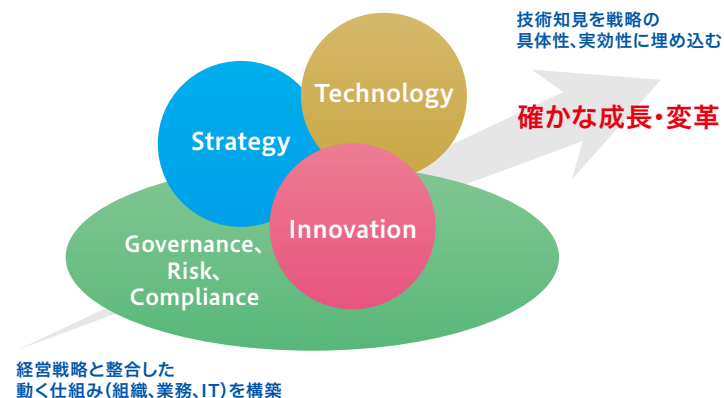
現在はテクノロジーの進化や社会環境の激変、国内の人口減少に伴い、様々な業種・業界において既存のビジネスモデルの検証と変革が求められ、新たな事業創出や市場開拓が求められています。フューチャーグループでは、先進的なシステムの構築と効率的なオペレーションを実現するために必要な人材を提供することで経営の中核に深く関わり、長期的戦略パートナーとしてお客様とのさらなる関係強化に努めています。

2005年	SGシステム様	CIO補佐 2009年SGホールディングスの株式取得
2010年	ローソン様	CIO補佐
2011年	全日本食品様	CIO補佐
2015年	ウシオ電機様	CIO補佐
2016年	大手化粧品会社様	CIO補佐
2017年	ワールド様	ジョイントベンチャー設立
	エービーシー・マート様	CIO補佐
	大手流通会社2社	CIO補佐

戦略企画力を強みとする「Strategy Innovation Group」を設立

フューチャーグループは、企業の重要課題解決に貢献し、グローバルな企業成長を実現するため、「Strategy Innovation Group (SIG)」を2017年10月に設立しました。

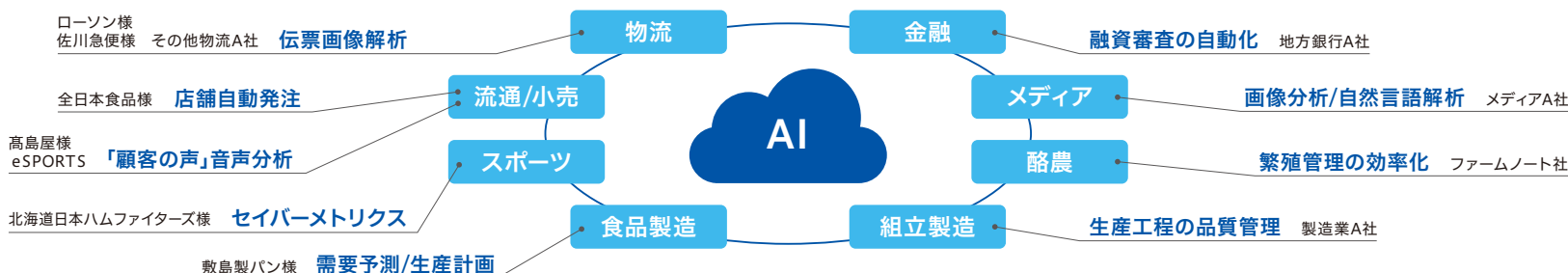
AIやIoTなど最新テクノロジーが社会やビジネスの構造変革を促す中で、経営戦略とIT戦略を一体化させることは不可避の経営課題とされています。「SIG」は、フューチャーが培ってきたテクノロジーの知見を経営戦略の実効性に埋め込み、企業変革や事業創造、それに伴う製品・サービスの開発や人材開発・改革、グローバルな市場開拓、リスク・マネジメントといった戦略コンサルティングサービスを提供していきます。経営とITを一体化させたトータルなデザイン力に戦略の企画力を加えて、企業と社会の成長・変革にこれまで以上の貢献を目指します。



AI活用コンサルティングサービス「Future AI」

これまでに様々な業種のお客様に対してAIを活用した自動発注や需要予測のシステム、画像認識サービス、問い合わせメールの自動振り分けなどの実績があるフューチャーアーキテクトは、2017年7月からAI活用コンサルティングサービス「Future AI」の提供を開始しました。

「Future AI」は、これらの実績を重ねる過程で培われた知見とノウハウをベースとしており、戦略やイメージーションをAI活用により具現化するための構想段階のデザイン、仕組みづくり、効果創出までトータルでサポートしています。フューチャーアーキテクトは業種業態を問わず様々なお客様に「Future AI」を提供し、業務効率や品質向上、新たなサービスや事業の創出に貢献していきます。

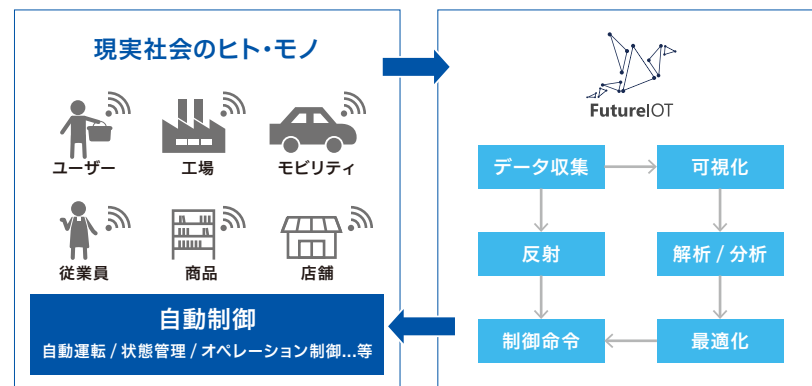


クラウド型IoTプラットフォーム「Future IoT」

フューチャーアーキテクトは、例えば工場の製造工程における設備などから収集した大量のプロセスデータや稼働情報をクラウド上で統合管理し、リアルタイムに分析できるようにする「Future IoT」を提供しています。

2017年7月には、ウシオ電機様向けに「Future IoT」をベースとしたIoTプラットフォームを構築しています。国内外の工場から多種多様なセンサーデータを収集してリアルタイムに分析を行うことにより、トレーサビリティ、品質管理、生産性の向上を実現しました。

今後も、現実社会のヒト・モノのデジタル化による地方創生、社会問題の解決、グローバルへの挑戦など、様々なお客様向けに「Future IoT」を提供していきます。

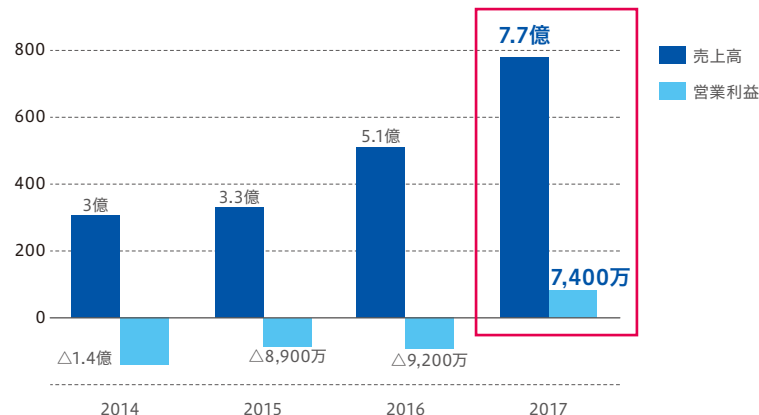


東京カレンダーが単年度黒字を達成

東京カレンダー（マッチアラム社を含む）は、前期比51%増の売上高7.7億円、営業利益は7,400万円の単年度黒字を達成しました。

看板コンテンツ「港区おじさん」の誕生と動画広告の受注増加により、2017年11月には月間動画再生回数が700万回を突破しました。

月刊誌とWEBの連動プロモーションの取り組みにより、神楽坂特集号（2018年3月号）は過去最大の販売部数を記録しました。



プロスポーツのIT武装を支援

ライブリッツは、プロスポーツのIT武装化に大きく貢献しています。独自に開発したアプリケーション「Future Fastball」は、プロ野球選手の投球や打席などのデータをAIやセンサー技術を駆使した統計学的見地から、定量的に分析し客観的に把握するセイバートリクスを推進。選手の能力や状態に関するあらゆる情報をリアルタイムに数値化してスピーディーに選手にフィードバックすることにより勝利に貢献し、科学的で戦略的なチーム編成とフロント経営を支援しています。

「Future Fastball」は複数の球団に導入されており、日本シリーズで5年連続優勝しています。その実績により2017年度にはセ・リーグの球団でも採用され、初の第4四半期黒字化を達成しました。

5年連続日本一達成

2013年 東北楽天ゴールデンイーグルス



2014年 福岡ソフトバンクホークス



2015年 福岡ソフトバンクホークス



2016年 北海道日本ハムファイターズ



2017年 福岡ソフトバンクホークス



特集

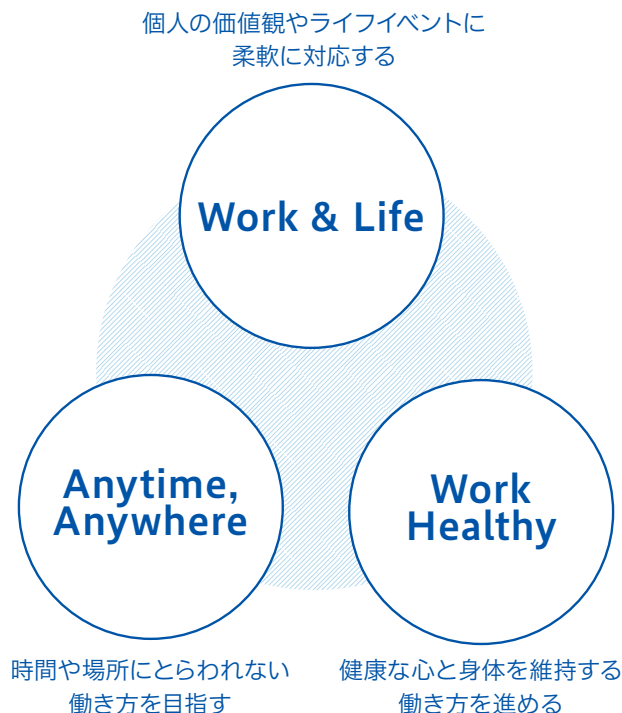
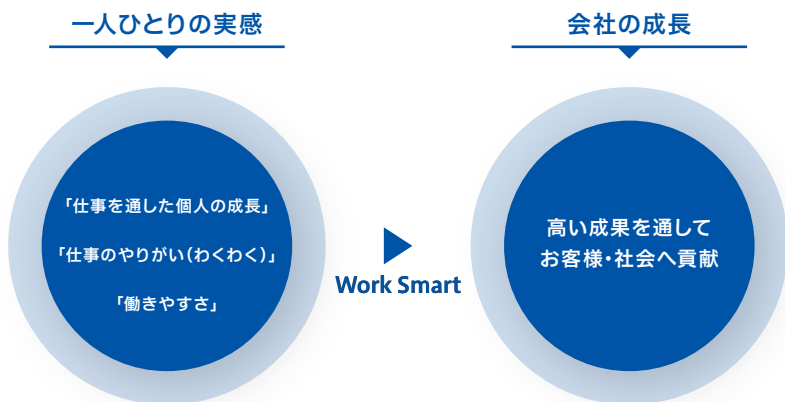
- Feature -

フューチャーのスマートワークスタイル

Future Work Styleとは

フューチャーグループでは、企業の永続的な成長とプロフェッショナルである個人の付加価値の向上を目指し、多様で柔軟なワークスタイルを実現しています。

3つの柱で構築されたワークスタイルは、社員一人ひとりに「仕事を通じた個人の成長」、「仕事のやりがい(わくわく)」、そして「働きやすさ」を実感できる環境を整えることにより、社員がクリエイティブな発想とイノベティブな成果を創造することをサポートしています。



「Future Work Style」

Concept

Work & Life

一人ひとりの価値観を尊重し、ライフイベントに対応した多様な働き方のために、短日数・短時間勤務制度や育児サポート制度など、結婚、出産、育児、介護などに柔軟に対応する各種制度の拡充を図っています。

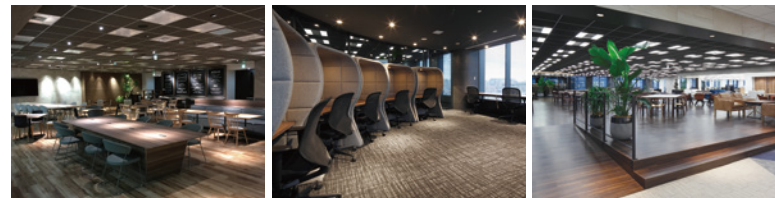
男性育児休業の取得率も高くなってきており、2017年度はファミリー休暇やチャイルドケア補助などのサービスメニューを追加し、育児休業中のパートでの復帰や早期復帰支援の試行も始めました。今後も介護サポートなど社員のニーズを汲んだサービスを拡充していきます。



Anytime, Anywhere

裁量労働制、テレワークをいち早く採用し、社員が空間や時間に縛られずに働ける環境を整えています。個々のワークスタイルや業務に合わせた空間・設備を用意し、活発にアイデアを出し最大限効率的に働けるようサポートしています。

2017年度はオフィスにイノベーションワークフロアを開設しました。お客様も利用できるカフェスペース、イノベーションを誘発するコワーキングスペース、パーソナルスペースなど独創的な空間にしました。今後も、社員全員が高い付加価値を創出できるよう追求し続けます。



Work Healthy

オンとオフの切り替えを徹底し、健康な心と体を維持する「健康戦略経営」を重視しています。2014年にはフューチャーグループ健康保険組合を設立、若い世代も対象とした手厚い定期健康診断、社員や社員の配偶者を対象とした婦人科検診など充実したセルフケアメニューを用意しています。また、産業カウンセラーが常駐することで社員がいつでも気軽に相談ができる環境を整えています。

年次有給休暇の取得促進や、一定の勤続年数に達した社員への特別休暇の付与も積極的に実施しています。



フューチャーの業績・財務状況

連結貸借対照表

ー決算のポイントー

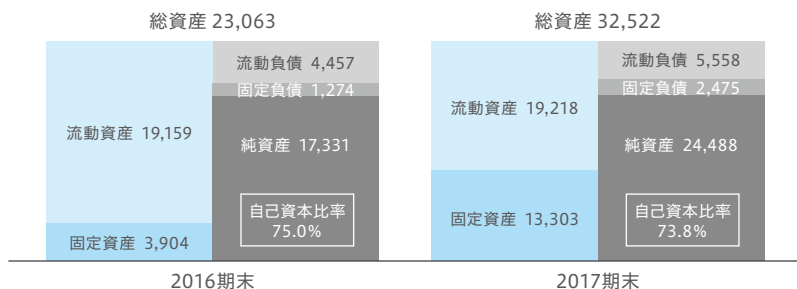
- ◆ 総資産は、投資有価証券や受取手形及び売掛金の増加等により、前期末比9,458百万円増加
- ◆ 負債は、繰延税金負債の増加等により、前期末比2,301百万円増加
- ◆ 純資産は、有価証券の評価差額及び利益剰余金の増加等により、前期末比7,157百万円増加

[単位:百万円]

	前連結会計年度末 2016年12月31日現在	当連結会計年度末 2017年12月31日現在
流動資産	19,159	19,218
固定資産	3,904	13,303
流動負債	4,457	5,558
固定負債	1,274	2,475
純資産	17,331	24,488
総資産	23,063	32,522

総資産の推移

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

連結損益計算書

ー決算のポイントー

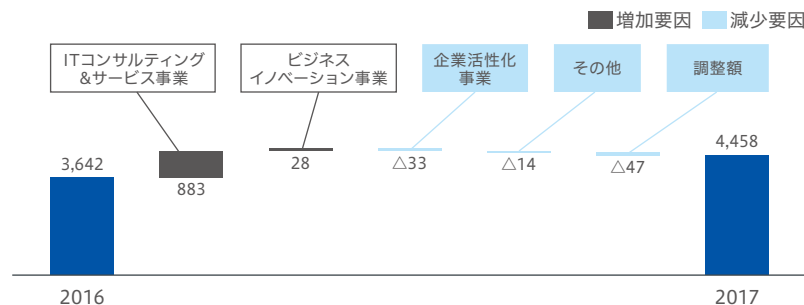
- ◆ ITコンサルティング&サービス事業において売上高・営業利益が前期比で増加、ビジネスイノベーション事業において営業赤字幅が減少したことにより、全体の売上高・営業利益ともに増加

[単位:百万円]

	前連結会計年度 自2016年 1月 1日 至2016年12月31日	当連結会計年度 自2017年 1月 1日 至2017年12月31日
売上高	33,653	36,265
売上総利益	13,419	14,740
販売費及び一般管理費	9,777	10,282
営業利益	3,642	4,458
経常利益	3,589	4,756
親会社株主に帰属する当期純利益	2,208	3,733

営業利益の増減要因

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

連結キャッシュ・フロー計算書

—決算のポイント—

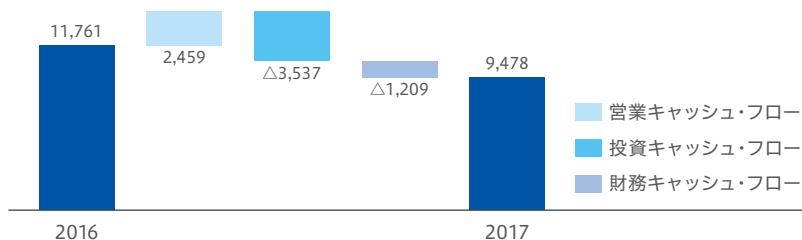
- ◆ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上や売上債権の増加による支出等により、2,459百万円の収入
- ◆ 投資活動によるキャッシュ・フローは、子会社株式の取得や無形固定資産の取得による支出等により、3,537百万円の支出

[単位:百万円]

	前連結会計年度 自2016年 1月 1日 至2016年12月31日	当連結会計年度 自2017年 1月 1日 至2017年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,268	2,459
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24	△3,537
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,240	△1,209
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	4
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	2,004	△2,283
現金及び現金同等物の期首残高	9,757	11,761
現金及び現金同等物の期末残高	11,761	9,478

キャッシュ・フローの推移

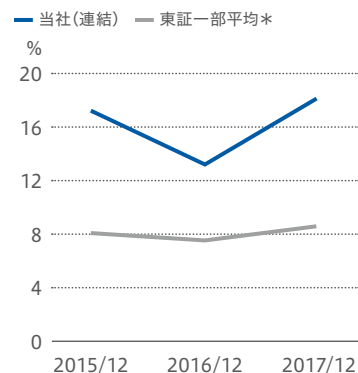
[単位:百万円]



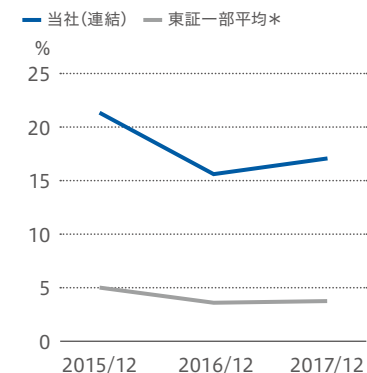
※現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

フューチャーの投資指標

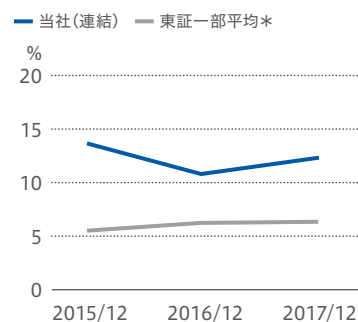
自己資本当期純利益率(ROE)



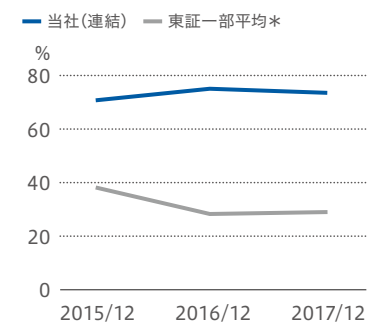
総資産経常利益率(ROA)



売上高営業利益率



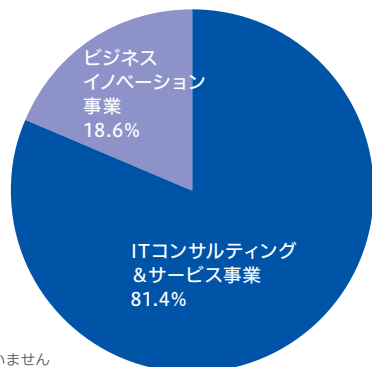
自己資本比率



*2015年3月期、2016年3月期、2017年3月期決算短債(非連結を含む)を発表した東証一部上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。
(出典:東京証券取引所統計資料)

フューチャーのセグメント別業績・戦略

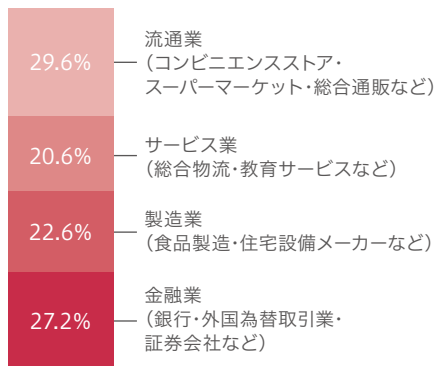
セグメント別売上高構成比 2017年度



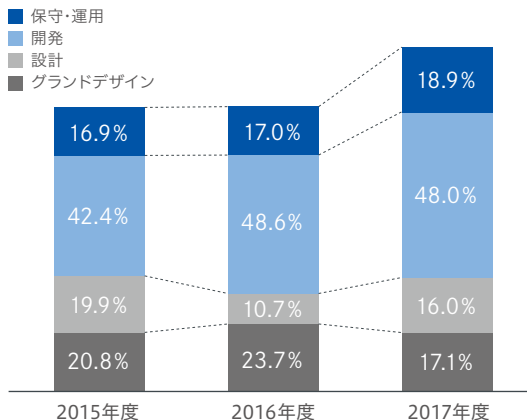
注)セグメント間取引は含んでいません

ITコンサルティング&サービス事業における業種別売上高構成比

2017年度



ITコンサルティング&サービス事業におけるフェーズ別売上高構成比推移



※フューチャーアーキテクト、ワイ・ディ・シーおよびフューチャーアーキテクトからフューチャーインスペースに移管した保守・運用案件を合算しています。調達品およびその保守は含んでおりません。

2017レビュー

ITコンサルティング&サービス事業

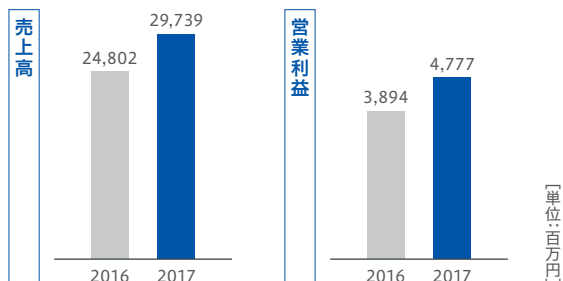
- ▶フューチャーアーキテクトは、アパレル・スーパー・メディア・自動車関連企業のAI、IoT関連プロジェクトや複数銀行の渉外・融資支援システム関連プロジェクトの新規受注及び既存プロジェクトの利益率改善効果により、営業利益が増加
- ▶ワイ・ディ・シーは、製造業を中心としたシステム開発の受託やオリジナルの品質情報統合解析ソフトウェア「YDC SONAR」の販売好調により、売上及び営業利益が増加
- ▶FutureOneは、独自の販売管理パッケージのリニューアルや中堅企業への対応強化により、売上及び営業利益が増加

ビジネスイノベーション事業

- ▶東京カレンダーは、コンテンツを20代から40代のライフスタイルストーリーにフォーカスし、自主制作の動画広告を活用することでユーザー数やページビューを安定的に増加させ、連動して雑誌の販売数も第2四半期以降増加。WEBと雑誌の双方で広告売上が増加し、初の通期営業黒字を達成
- ▶eSPORTSは、プライベートブランドのアウトドアやトレーニング用品の販売が好調で売上は増加したものの、夏季の天候不順や価格競争の激化等により、営業利益は減少
- ▶コードキャンプは、オンラインプログラミング講座の好調継続と転職希望者向け、子供向けの新規サービスが売上に貢献し、下半期での体制見直しもあり、第4四半期に営業黒字を達成

2017実績

ITコンサルティング&サービス事業



今後の見通し

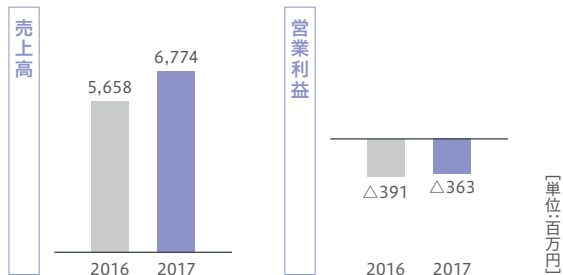
ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト及びフューチャーインスペースでは、独自のプロジェクト・モニタリングとマネジメント手法(「Future Navi」「Futurefraqta」)を活用し、短期間での高品質なシステム設計・開発を推進するとともに、幅広い顧客のニーズに対応するため、新設した「Strategy Innovation Group」による戦略コンサルティングサービスの提供を強化します。併せて、AIやIoT等の最先端技術を活用して画像解析、需要予測を行うプロジェクトを既に開始していますが、今後もこれら最新技術の研究開発に注力するとともに、研究成果を実際のプロジェクトに応用することにより顧客のニーズに応えます。

ワイ・ディ・シーは、フューチャーグループ内での連携を本格化させて技術やサービスの融合を進めるとともに、AIやIoT等の技術を適用した製造業向けのITコンサルティングと開発設計領域における業務改革コンサルティングに注力します。

FutureOneは、リニューアルした中堅企業向けERPパッケージの受注拡大を図るため、外部のビジネスパートナーとの連携を図りつつ、中堅企業向けの業務改革コンサルティングを推進します。

ビジネスイノベーション事業



ビジネスイノベーション事業

東京カレンダーは、4,700万の月間ページビューや自社制作による質の高い動画広告による集客力・プロモーション力だけでなく、月刊誌、WEB、イベントといった複数のメディア力を活かして、広告収入の増加を図るとともに、オンラインで婚活情報を提供するマッチアラム社との連携したサービス等の提供を強化していきます。

eSPORTSは、季節や天候に左右されにくいカジュアルスポーツ商品やプライベートブランド商品の品揃えを拡充するとともに、当社グループのテクノロジーを活用して価格や売れ筋商品の分析力を高め、東京カレンダーとの連携強化により顧客ロイヤリティの向上を図ります。

コードキャンプは、法人向けオンライン・オフラインのプログラミング教育や子供向けのプログラミング教育の充実、既存のプログラミング教育と連携した転職先紹介サービスの拡充など、提供サービスの強化を図ることで通期の営業黒字化を目指します。

- ※1 2016年4月1日付で持株会社体制への移行により組織体制を整備したため、2016年第2四半期連結会計期間より、従来「ITコンサルティング事業」に含めていたグループ運営に係る費用をセグメント利益の調整額に費用として計上する方法に変更し、各グループ会社からの業務委託料やグループ成長支援料等をセグメント利益の調整額に収益として計上する方法に変更しています。
- ※2 2017年第1四半期連結会計期間より「ITコンサルティング事業」と「パッケージ&サービス事業」を集約し、「ITコンサルティング&サービス事業」に名称を変更しています。なお、2016年度のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分および測定方法に基づき作成しています。
- ※3 「ニューメディア&ウェブサービス事業」は「ビジネスイノベーション事業」に名称を変更しました。

会社概要(2017年12月31日現在)

会社名 フューチャー株式会社
 英文社名 Future Corporation
 設立 1989年11月28日
 資本金 14億21百万円
 従業員数 1,847名(連結)

役員(2018年3月26日現在)

代表取締役会長 兼 社長	金丸 恭文
取締役副社長	東 裕二
取締役副社長	石橋 国人
取締役	齋藤 洋平
取締役(常勤監査等委員)	牧 保
取締役(監査等委員)	川本 明
取締役(監査等委員)	三田村 典昭
取締役(監査等委員)	渡邊 光誠

主要な連結子会社の状況(2017年12月31日現在)

- フューチャーアーキテクト株式会社
- フューチャーインスペース株式会社
- 株式会社ワイ・ディ・シー
- FutureOne株式会社
- 株式会社マイクロ・シー・イー・デー
- 株式会社eSPORTS
- 東京カレンダー株式会社
- コードキャンプ株式会社
- フューチャーインベストメント株式会社

他10社

主な事業所(2017年12月31日現在)

(当社)
 本 社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2
 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー
 TEL : 03-5740-5721 FAX : 03-5740-5820

大 阪 オ フ ィ ス 大阪市中央区

(フューチャーアーキテクト株式会社)
 本 社 東京都品川区
 大崎ウエストオフィス 東京都品川区
 ThinkParkオフィス 東京都品川区
 鹿 児 島 オ フ ィ ス 鹿児島県鹿児島市

株式の状況(2017年12月31日現在)

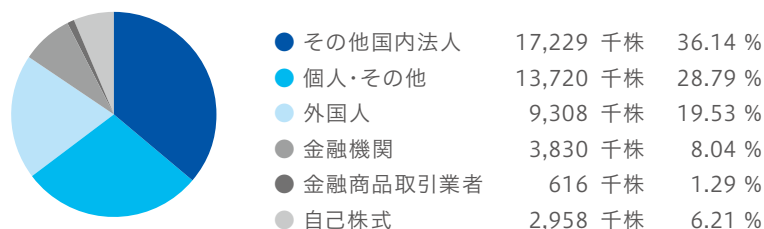
発行可能株式総数 189,376,000株
 発行済株式の総数 47,664,000株
 株主数 5,465名

大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
合同会社キークエスト・ネットワーク	15,093	33.7
金丸 恭文	5,558	12.4
SGホールディングス株式会社	2,000	4.4
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE HCR00	1,624	3.6
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	1,420	3.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,024	2.2
GOVERNMENT OF NORMAY	948	2.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	926	2.0
石橋 国人	618	1.3
森山 裕	582	1.3

※1 当社は、自己株式を2,958千株保有していますが、上記大株主からは除外しています。
 ※2 持株比率は、自己株式(2,958千株)を控除して計算しています。

株式の所有者別状況



○ ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取り扱いさせていただきます。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

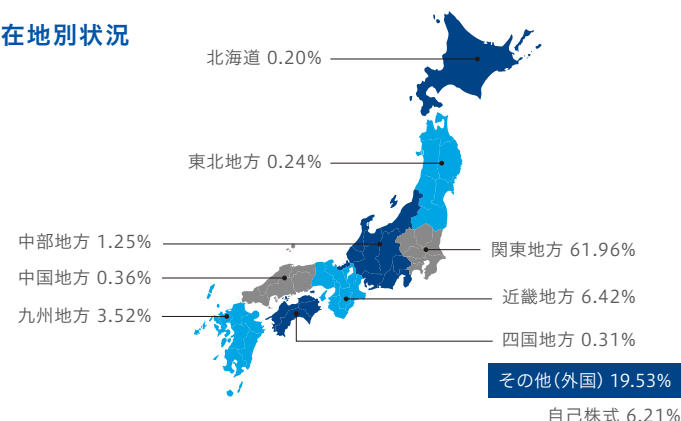
株主メモ

決算期 12月31日 期末配当 12月31日
 定時株主総会 3月 中間配当 6月30日

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 (連絡先・照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 フリーダイヤル:0120-782-031
 ホームページ: <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
 公告掲載URL <http://www.future.co.jp/hd-ir/notice/index.html>

ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

株式の所在地別状況



注意事項

本レポートには、現時点における情報に基づいた将来にかかわる予測が含まれております。それらは今後の日本経済やITサービス業界の動向などにより、変動する可能性があります。従って、当社がその確実性を保証または約束するものではないことも予めご承知おきください。

Future Report **2017**

フューチャー株式会社

本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2
TEL:03-5740-5721 FAX:03-5740-5820

<http://www.future.co.jp>